



2007年度 外部評価の実施

去る2月25日(月)、26日(火)の2日間にわたって2007年度の外部評価を実施しました。本年度は、常磐大学コミュニティ振興学部 水嶋英治教授、東京大学史料編纂所 保立道久教授、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所所長 井上順孝教授の3名を外部評価委員に委嘱いたしました。1日目には水嶋英治教授、2日目には保立道久教授、井上順孝教授においでいただき、拠点リーダーをはじめCOE関係者が出席して、最終年度の事業進捗状況を報告しました。

各外部評価委員には具体的な問題点を指摘していただきましたが、その主な内容は以下の通りです。



1日目 水嶋 英治 教授

1. 収集した資料や研究成果の公開方法
2. 終了後の後継組織
3. 非文字資料研究の到達点と可能性
4. 非文字資料発信に際しての著作権問題
5. 高度専門職学芸員養成プログラムの提示



2日目 保立 道久 教授・井上 順孝 教授

1. 統合化・体系化へ向けての研究組織のあり方
2. 研究成果の最終的な発信方法
3. 非文字資料と文字資料との理論構築
4. 日本常民文化研究所の将来構想
5. 画像資料のデータベース化と著作権問題
6. 若手研究者育成の実績

上記の内容について質疑応答が行われましたが、その評価につきましては、後日、各委員から評価報告書が届けられることになっています。最終的な評価は、後継組織である日本常民文化研究所非文字資料研究センターの刊行物などで公開することになります。

今回の外部評価は、最終年度ということもあって、5年間の研究成果とその発信方法、非文字資料研究の可能性、拠点形成としての後継組織のあり方、非文字資料のネット上での発信と著作権問題などが中心的な課題となりました。研究成果については、全体的に高い評価をいただきましたが、非文字資料の統合化・体系化の問題、ネット上での発信方法、若手研究者育成の方策などの点で問題も指摘されました。

なお、質疑応答の中で、非文字資料研究の有効性と日本、中国、韓国などを中心とするアジアの国々と連携した非文字研究の推進、高度専門職学芸員養成に関する連携大学院構想、非文字資料の著作権問題に対する取り組みなど、今後の研究活動の指針ともなる貴重なご意見もいただきました。

